

## 職業に貴賤はないが生きざまには貴賤がある

残暑の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

残念ながら高校野球は、愛知、岐阜、三重とも早々に負けてしまいました。大垣日大の阪口監督は今年もニコニコしていました。過去、決勝で負けた後、鬼の形相の自分の顔が恥ずかしく、それから無理して笑顔をつくるようにしたそうです。

「鬼の阪口」が「仏の阪口」になりました。やはり、笑顔は人をリラックスさせますね。



代表取締役社長 吉田治伸

さて、今回は「職業に貴賤はないが、生きざまには貴賤がある」です。日本は島国で単一民族ですので、多くの仕事は同じ日本人が行っていて、もともと職業に貴賤はありません。(この1点でも、日本は世界で最高に良い国だと思います。)では、生きざまはどうでありましょう？生きざまの貴賤は、日々の行動が恥ずかしくないかどうかではないでしょうか？与えられた仕事を雑に済ませようとする、しんどい仕事から逃げる、いつも人の非難ばかりする、…そういう仕事ぶりを見かけた時、皆さんはどう思われますか？人生のほぼ3分の1を占める仕事で表面に表れる生きざまは、人格の大きな部分です。

私の生きざまに対する思いは、「変えられない他人や世の中のせいにせず、自分の目標を全うしたい。他人に良い影響を与えられる人間でありたい。」であります。具体的な標語だと「清く、明るく、楽しそうにみせる」です。「清く」は、不正をせず、「明るく」は、笑顔、挨拶です。そして「楽しそうにみせる。」は、これこそ、仕事を行う価値であります。価値は残念ながら人が決めるものです。「楽しそうにやっている。」「好きでやっている。」ように見える事は重要な「価値」なのであります。そんな風に9月からも頑張ろうと思います。

夏の疲れを持ちこさず、9月からも最高の笑顔でお願いします。